

登米地区の研究のまとめ

「生活で活用できる力」の育成を目指して

～「つながり」を深める指導の工夫～

登米地区教育研究会技術・家庭科部会
研究部長

登米市立米山中学校 教諭 千葉 由美

1 はじめに

これまで、東北大会や県大会に向けた研究を通して、登米市としての指導計画（登米市モデル）を追い求めながら、扱いたい題材や時数、時期などの話し合いを重ねてきた。しかし、本地区では技術科の免許所有が少なく、家庭科の教員が技術科（または、技術科の教員が家庭科）を担当して指導する機会が多い。そのため、指導内容を教えることに重点が置かれ、実生活で工夫し、生活を創造していくレベルまで深めさせることが難しかった。

そこで、本年度は「生活に活用できる力」に焦点をあてて共同研究に取り組むこととした。

そして、地区の研修等を通して、計画の見直しや教材教具の活用方法の研究、技能習得を図ることで、テーマに迫りたいと考えた。

2 研究のねらい

生活で活用できる力を育成するためには、どのような指導の工夫が必要であるか、実践や研修を通して明らかにする。

3 研究の内容

(1) 県技家研究部の方向性確認（8月3日）

県の研究方針や県大会での各地区の研究割り当てなどを確認した。平成30年度に「身近な消費生活と環境」の研究発表が割り当たっているため、本年度から授業実践を重ねていく必要があることを確認した。

(2) 指導計画の見直し

家庭科では、平成30年度の研究発表に向け、年間指導計画の見直しを行った。「身近な消費生活と環境」の指導内容や「衣生活・住生活と自立」「食生活と自立」が相互にどのように関連しているのか。また、実生活で活用させるための指導の系統性

などに配慮しながら授業実践に取り組んだ。

(3) 学習指導上の課題の確認

本地区では、家庭科の教員が技術の授業を受け持っていることが多く「プログラムによる計測・制御」に不安を抱えたまま指導している現状であることがわかった。情報分野の技術は日々進歩している。そのため、発表されている教材教具や教材教具となりうるものは多いため、教材教具の開発や技能の習得や向上を図るためにも、研修をすることの必要性を確認した。

(4) 制御に関する研修会（10月3日）

「プログラムによる計測・制御」について、最新の教材を使って、制御学習の授業展開例についての研修会を、講師を招いて開催した。電子部品の働きや電子回路の基礎について理解し、自分で回路を設計し製作することで、家庭生活で使用されている電気機器に応用されているプログラムへの展開等についても研修した。

4 研究のまとめ

情報交換等の話し合いや研修会を通して、「生活に活用できる力」の視点で指導計画を見直すことができた。

制御に関する研修会では、教材開発のコンセプト、指導展開例など講習を通して学ぶことができた。特に、実生活に直結した回路設計と実験が簡単に体験できる教材の効果を全員で確認することができたのが大きな成果と言える。

今後は、生徒の生活で活用できる力の育成につながる指導の工夫について、更に研究を重ねていきたい。